

SORA

web magazine 2015.aug. vol.60

Papua New Guinea

TUMI

Photo & Text : Kyu Furumi

箱庭的海

MAP
CLICK!

tsumi-shima tsumishima.com
ダイバーの夢をつみあげていく島



(株)ワールドツアープランナーズ
www.wtp.co.jp

© 2015
World Tour Planners Co.,Ltd.
All Rights Reserved.



大明星出現

風のように現れるスーパースターたち



サプライズは突然起こる
神経を張り詰める

トフフィのダイビングポイントの特徴として、まずサンゴの美しさを挙げずにはいられない。主なポイントはリゾートから 30~40分ほど沖合に走った隠れ根となる。その隠れ根のリーフトップはまさにサンゴの楽園だ。多種多様なサンゴがぐちゃぐちゃに混ざり合う、超自然状態。

例えは悪いかもしれないが、人の手を入れていない草っ原のようなイメージだ。それは言い換えれば自然の強さ。この雑然としたまとまりのないサンゴ群生に、メラネシアン・アンティアスヤパープル・ビューティーが色を添える。掛け値なしに素晴らしく美しい光景だ。



一面天然珊瑚 全てを育む存在





サンゴや群れの密度が凄すぎて目が届き難いかもしれないが、トゥフィの海はマクロ生物を探していても楽しい。というのも小さな生物を際立たせる、美しい撮影環境が整っているからだ。鮮やかなソフトコーラルや海綿などハゼやウミウシと絡めて撮影していると、時間を忘れてしまうほど楽しい。個人的には夕方ポートダイブを終えてからの、ハウスリーフダイブもお気に入りとなった。透明度は良いとは言い難いものの、カエルウオの数がとにかく多くて、カエルウオ同士の絡みや、渋い色彩のニシキボヤにちょこっと乗っている姿が頻繁に見られたりと大満足。ハウスリーフは思い切ってマクロで楽しんでもらいたい。いろんな絵作りが楽しめることだろう。





紅白変化魚

チカメタカサゴ。通称レッド・ピンジャロスナッパーと呼ばれるこちらの魚は、トゥワイの名物的な存在とも言うことができる。群れの形は美しいのだが、遠目から見ただけではこの魚の魅力は伝わり難い。というかほとんど伝わらないのではないだろうか。この魚の真価は近付いた時に発揮される。

ふらふらふらと群れが僕から離れていくのを追わずに、その場で待機していたら今度は慌ただしく僕に向かって急接近してきた。しかも、それまで灰色で地味だった身体を真っ赤に染め上げて。この短時間で何があったのかわからないけれども、とんでもない早変わり。歌舞伎役者もびっくりだろう。こうして毎回のようにチカメタカサゴたちは、ダイバーを楽しませてくれているんだらうなあと、なんだか彼らのことがとても愛しく思えてくる。



トゥファイリゾートは壮大なフィヨルドを見下ろす高台に建てられているため、レストランからの景色は抜群だ。毎度の料理も朝から晩まで全て美味しく、バーの近くはWi-Fiもしっかり飛んでいるので、何か不便に感じることは全くない。落ち着いた大人の秘密リゾートという感じた。

滞在中にはぜひローカルビレッジにも訪問してもらいたい。彼らの伝統的な衣装やダンス、昔ながらの自然の中に根付いた生活の一部を感じることができるだろう。

